

フリードHVの実力!?

6・26

ベストカー

Best Car

頑張ろう東北&日本!!



定価340円

講談社ピーシー/講談社

NEW CARに
遅い春が到来

プリウスα、すでに大ヒット確定!!

正式デビュー
は年内か!?

NEWインプレッサ日本特撮、徹底研究



トコトン突き抜けてほしい
GT-R!!



NEWインプレッサ
どっだ!?

BIG SCOOP 2

BIG SCOOP 1

トヨタLFAもすかさず戦闘力アップ!?

GT-R、この秋560psに到達!!

NA30km/ℓの攻防戦

Special Scoop!!

アウディ、ベンツ、VW……新型車、続々登場!!

ダイハツイース、発売は9月、80万円以下

いま最も気になる

最新輸入車

新車10の質問

オールチェック



BIG SCOOP 3



まともなのはどれとどれ? いつの間にか増えていた、世界のハイブリッド20台 研究

トヨタ利益3倍
日産も大幅増益!

自動車メーカー3月決算、真に好調なのは?

日本人が大好きな高級車3台の次期型情報 & レクサスLSとアルファード
次のクラウンがわかった!!

BIG 特集

もし現代まで
生き残っていたら?

絶版車惜しすぎるランキング

ヨコハマEVは今 天空を極める……

カウルを外すと綿密に計算されたオリジナルのスペースフレームがあらわになる



ヨコハマタイヤが今年もEVでPikes Peak International Hill Climbに挑戦!



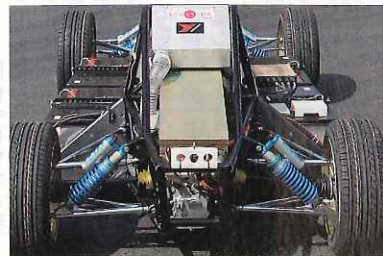
バッテリーの消耗状態を見ても不安材料はなく、タイム短縮に自信を深めるスタッフ



新しいカラーリングでイメージが一新された「チーム・ヨコハマEVチャレンジ」のHER-02



バッテリーは昨年同様、信頼性の高い三洋電機のリチウムイオンバッテリーを搭載



モーターはACP製の交流モーターを使用。リチウムイオンバッテリーとの組み合わせは現状では最強のウェポンといえる



エコロジーを追究したEarth-1のサイズはフロント225/50R17、リア245/45R18

11のプロトタイプをアドバン・レーシングRG IIホイールに組み込み使用する。近年のPPHHCのコースは、観光道路ということで年々舗装化が進んでおり、約20kmの全行程中、昨年まではタート区間と舗装区間がほぼ半分ずつだったが、今年は約7割が

アスファルト舗装となり、タイヤに求められる特性も変わってきており、EV独特のフラットなトルク特性に合わせたトラックシヨンの重視の仕様でコーナー数156個、高低差1400mのコースを一気に駆け上がる。より舗装重視の仕様が求められることになった今年のPPHHC。チーム・ヨコハマEVチャレンジは6月中旬にロス近郊のサーキットで最終チェックを行い、最終仕様を決定する。

「基本性能が高い次元で完成していたこともあり、大きなモディファイもせずに船積みできました。今年の目標は昨年のタイムを20秒以上短縮して12分台を記録したいのですが目標達成可能な仕上がりに思っています。EVクラスでのライバルは日産リーフ、彼らがどのような戦いぶりを見せるのかも楽しみですですね」と搞選手。3回目の挑戦となるチーム・ヨコハマEVチャレンジ。過去2回のデータを蓄積している強みを生かせば12分台突入は充分可能な目標ではないだろうか。



レポート:熊谷 睦 / 撮影:桜井 淳雄

昨年マークした13分17秒6を上回る12分台が今年の目標

CloseUp 世界最速レーシングEV、 2011パイクスピーク ヒルクライム制覇に向けて始動!

米国コロラド州ロッキーマウンテンに位置する標高4300mのパイクスピークを舞台に戦われるPPHHC(パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム)が6月26日に開催される。米国ではインディ500レースに次ぐ伝統を誇る一戦であり、今年は二輪122台、四輪61台が参加する。そのなかでも注目目はEVクラス。昨年まではエキシビションクラスに編入されていた電気自動車だったが、今年はEVクラスとして成立することになり、ヨコハマEVチームはPPHHC挑戦3年目となる今回、完璧なまでの陣容を築いて挑む。マシンは昨年13分17秒6の電気自動車におけるコースレコードを記録したHER-02をベースとしており、シャシーはオリジナルのスペースフレーム。モーターはACP製の交流モーター、バッテリーは三洋電機製リ

チウムイオンバッテリーを使用している。「エンジン仕様のレーシングカーとタイム比較すると、500馬力程度の実力を秘めている」とドライバーを務める堀郁夫選手は語る。スタート地点は標高2860mで、標高4300mのゴールを目指すPPHHCでは、標高が上がるにつれてエンジンカーは酸素不足による燃焼効率の低下が著しくなり、頂上付近では出力が6割程度まで低下、1000馬力を誇るターボ・エンジン車両も600馬力程度までパワーダウンするといわれる。その点、EVはモーターを動力とするだけにパワーダウンの心配はなく、HER-02の総合的なポテンシャルは極めて高いといえる。タイヤは今後のEV隆盛の時代とエコロジー対応を予見して横浜ゴムが開発したEarth

走行後にエンジンと意見交換。的確な指示がマシンポテンシャルを上げる

今年こそ約7割がアスファルトなのでタイヤに求められる特性も激変

テスト走行で目標の12分台突入の手応えがつかめた!

